

◆次第：①開会、②議事、③その他

◆議事：①基本構想（部会素案）について、②施策体系について

◆審議概要：

①基本構想（部会素案）について

【スローガン】

- 人目に触れるところでやるのが舞台。暮らしは「舞台」に馴染まないのではないかな。
→家の中で充実した生活ができていれば、舞台と受け取っても良いのではないかな。表舞台だけではなく、裏舞台もある。
→ライフ（暮らし）も人生の大切な舞台であり、そこにはさまざまな活躍の仕方がある。
→「舞台」という単語は多面的に解釈することができる。
- 市民と行政が一緒になってまちづくりを推進するという覚悟が出ていると解釈してよいか。行政のいままでの対応を変えていかなければならないということも出てくると思う。
→協働をさらに進めていく必要があると考えている。

【まちづくりの視点】

- (2)、「子育て世代が住んでみたい」を、「子育て世代も住んでみたい」とすべきではないかな。子育てが終われば出ていくということになれば、ますます人口が減っていく。
- (3)、「夢」という単語を入れて、「未来のまちにつなげるため、夢を持って、活力を創出するとともに」にしてはどうか。

【将来都市構造の基本的な考え方】

- 北部地域について、自然環境、田園環境だけを守っていくという方向性で決め切ってしまってもよいかな。活性化の観点はなくともよいかな。
→今後の都市計画審議会の議論を踏まえて考えていく。

【めざすまちの姿】

<共通>

- キャッチフレーズの表現をがらっと変えた意図は何か。
→印象に残るような表現を意識して作成している。方向性をがらっと変えているわけではない。
→10年ごとの計画であり、打ち出し方は、これまでとこれからを踏まえ考えればよいと思う。

<安全・都市基盤>

- 「・」3つ目、「誰もが犯罪や交通事故がなく、安全・安心に暮らしている」を「犯罪や交通事故がなく、誰もが安全・安心に暮らしている」にしてはどうか。
- 「・」4つ目、現状、宝塚は山手に住宅もあり、コンパクトなまちになっていない。住環境の良さを伝え、人を呼ぶという方向も考えられる。

- 住んでいる方々への配慮は必要。今後 10 年間の計画と考えた時に、コンパクトなまちづくりを進めるといふ方向性でよいのか検討が必要である。
- 土砂災害警戒区域については、土地利用をコンパクトにしていくということも考えられる。
- 「・」 5 つ目、「子育て世代が移り住みたい」と記載しているが、子育て世代に限らなくても良いのではないか。
 - 人口減少、少子高齢化を踏まえ、子育て世代に移り住んでもらうことが特に大切ではないかと考えている。
 - 「子育て世代」とすると、子どもがいない世帯は来られないように感じる。
 - 「子育て世代」に移り住んでもらう視点は重要。子育てをされる方々にとって住みやすいまちにしていくという決意表明ではないか。
 - これから一番重要なのは高齢者対策である。
 - あえてこの住環境の部分で「子育て世代」に限定する必要はないのではないか。「誰もが移り住んでみたい」とすれば、全てを網羅できる。
 - 「子育て世代が」を「子育て世代も」にしてはどうか。
- 「・」 5 つ目、順番を一番上に記載してはどうか。
- 「・」 6 つ目、「車両や歩行者にとって安全で」を「歩行者や車両にとって安全で」にしてはどうか。
- 空き家対策についてこの分野に加えてもらいたい。
 - 具体的な内容は基本計画の中で紐づけていく。
- 土砂災害警戒区域があり、ハード面の備えも重要になるので加えてもらいたい。

<健康・福祉>

- キャッチフレーズ、「福祉が充実し、・・・」とあるが、ここでいう福祉は、社会保障制度だけでなく、地域の支え合いなど広い意味での福祉を表現しているか。基本計画で施策として出てくるのか。
 - 地域の支え合いの視点は、基本計画でも出てくると考えている。
 - 地域ごとのまちづくり計画の中でも広い意味での福祉を盛り込んでもらい、その基盤づくりを行政も考えていくという構図になると良い。
- 「・」 1 つ目、多様な主体の人権を認めあうという表現を追記してもらいたい。
 - 共生に近い表現。いまや社会福祉の目的の一つは、誰もが社会参加できること。
- 「・」 7 つ目、病院だけでなく、医院、開業医を含める必要があるのではないか。
 - 診療、かかりつけ医の総合的な対策が、今後重要になってくる。
- 単身世帯が増えている。一人でも住めるような人のつながりが必要という視点を記載する必要がある。
 - 単身社会になると包括的な支援が求められ、体制づくりが急がれる。その視点が表現されていない。
- 若者の貧困対策につながる記載がない。「生活困窮者自立支援」が重要視されている。若者が生き生き暮らせるというような表現が欠けている。
- 安心して妊娠・出産できる切れ目ない支援体制の強化は重要。妊娠・出産、子育てには人手が必要となるが、それに対するケアがあまりないので、そのあたりに触れてもらいたい。

<教育・子ども・人権>

- 「・」2つ目、「安心して子どもを生み育てる環境が整っている」とあるが、一人親や悩みを抱えている親もいるので、そのあたりのことを深掘りしてもう少し表現できないか。
- 「・」4つ目、生きがい・健康・体づくり以外の、スポーツの効用としては、人間性、人格を育てるという意味合いもあると思う。その観点も記載してはどうか。
- これからの社会は、若い10歳代の子どもたちの意見をもっと取り入れていかなければ、成り立たなくなると思う。積極的に子どもの意見を聞く、反映させるという姿勢が必要。
- 「タカラ ミライ ラボ」の提言にある、子どもの遊びの場を充実するということが表現されていないと思うので、入れてもらいたい。
- 現状認識に、親の貧困に関する記載をしてはどうか。
 - 親の貧困が連鎖を生み、その子どもも貧困と呼ばれる層になる。親の貧困は非常に大きな問題であるため、検討してもらいたい。
- 子どもの貧困、社会的養護を要する児童が増えていることについて、全く取り上げられていないので、検討してもらいたい。
 - 子どものことについては、学校教育、社会教育、子育て、人権で書かれているが、子どもの貧困、家庭環境に関する視点が抜けている。
 - 教育政策、所得政策、世代間連鎖の三つの視点が重要。社会的に解決していく問題であり、家庭環境、子育て、親への支援などについての文言を増やしてはどうか。
 - 子どもの生きる力を育てることができれば連鎖を断ち切れると思う。
 - 地域の教育とともに、公的な子どもの教育の保障を確保する、といった表現を盛り込むことが重要。

②施策体系について

- 「スポーツ」が、教育・子ども・人権の分野にあることに違和感がある。
 - 生涯学習として広い意味で捉え、教育の一分野として位置付けている。